

トムラウシ山南沼野営指定地 汚名返上プロジェクト1年目の活動報告と今後の取組

牛嶋 あすみ（北海道十勝総合振興局保健環境部環境生活課自然環境係）

【プロジェクト開始の経緯】

トムラウシ山は、日本百名山の1座として知られ、美しい景観にあこがれた登山者が道内外から多く訪れる山であるが、一方で美観を損ねる南沼野営指定地のトイレ問題が年々深刻化している。平成28年度、「山の日」のPRイベントとして、山をキレイに利用してもらうための携帯トイレ普及啓発事業を実施した事をきっかけに、しっかりとトムラウシ山南沼野営指定地について取り組む必要があると考え、事業を実施することとなった。



平成28年度 山の日イベント：
携帯トイレ無料配布の様子

【トムラウシ山南沼野営指定地の現状とこれまでの対応】

トムラウシ山南沼野営指定地は、野営指定地の外側にいわゆる「トイレ道」が複数延びており、高山植物が失われ、裸地化した道は土壌浸食が起きている。既に道になっているため、登山客にとってはトイレ道を利用することに何の抵抗もなく、罪悪感も感じないことから頻繁に利用され、結果としてトイレ道はどんどん延伸化していくという悪循環ができてきている。

排泄物の放置とティッシュペーパーの散乱は環境省の職員等が掃除をしても減ることがなく目に余る状態である。「白いティッシュの花」と揶揄されるほど、多くの排泄物やティッシュペーパーが放置されており、きれいなお花畑の景観を台無しにしている。悪臭も漂うことがあり、日本百名山にして道内でも有数の環境の悪さを誇っている。

こうした状況に対し北海道は、携帯トイレの普及を図ることを目的として、平成12年から平成16年に宿泊施設や山岳ガイドに携帯トイレを設置し、登山者に無料配布を実施

した。

また、平成14年には南沼野営指定地に携帯トイレブースを1基、登山口に携帯トイレ回収ボックスを2基設置した。しかし、その後、継続的な取組がなされず、携帯トイレの利用が定着しなかったことから、トムラウシ山のトイレ環境はさらに悪化してしまった。



(南沼野営指定地トイレブース)



(南沼野営指定地トイレ道)

※ 岩陰へ向かう長い道が続いていた。

【トムラウシ山汚名返上プロジェクト始動】

平成29年4月17日に大雪山国立公園の新得地区における登山道を維持管理する協議会に山岳トイレ環境を専門に考える部会を設置し、継続してトイレ問題に取り組んで行く「トムラウシ山汚名返上プロジェクト」が始動した。部会のメンバーは、環境省上士幌自然保護官事務所、林野庁十勝西部森林管理署東大雪支署、北海道上川総合振興局、新得町、十勝山岳連盟、新得山岳会、山のトイレを考える会、北海道十勝総合振興局をもって構成している。

なお、前述の平成14年に設置した携帯トイレブースは現在も利用されており、当該プロジェクトが実施できるのは、当時の北海道の取組があったからだと言える。

4月17日に開催した部会は、テレビ、新聞各社に取材をしていただいた。このことにより、トムラウシ山でトイレ問題が発生し、山の環境が悪化していることを世の中に大きく訴えることができ、携帯トイレ普及を目指す当該事業が大きく前進したと考えている。インターネットでもしばらくの間、トムラウシ山のトイレ問題が話題になっていたり、携帯トイレを販売している企業や可動式トイレを販売している企業から問合せがあるなど、反響があった。トムラウシ山のトイレ問題だけではなく、全国の山岳トイレについての問題提起ともなり、普及啓発の大きな一歩となった。

【1年目の取組】

平成29年度に実施した事業は次のとおり。

- ① トムラウシ山南沼野営指定地利用者に対するアンケート調査
- ② トイレ道の植生復元事業
- ③ 携帯トイレの普及啓発活動

（アンケート調査）

アンケート調査は、現地の実態を把握するために実施することとした。調査内容は別紙のとおり。新得山岳会、山のトイレを考える会、環境省上士幌自然保護官事務所、上川総合振興局、十勝総合振興局が分担して、平成29年7月から8月の週末に1泊2日の行程で南沼野営指定地の調査を実施した。加えて、新得町役場、十勝西部森林管理署東大雪支署が、同年7月から9月にトムラウシ山短縮登山口にて下山してきた登山者に対して調査を実施した。

アンケート調査を実施したことで、トムラウシ山のトイレ問題を登山者に対して直接伝える効果もあり、普及啓発にも繋がったと考えられる。

■ 南沼野営指定地のアンケート調査 全7回実施 88人から回答

問4「南沼野営指定地では携帯トイレの利用をお願いしていることをご存じでしたか？」

「知っていた：89%」、「知らなかった：11%」

- 取組の認知度が非常に高い結果が得られた

前述したように、テレビ、新聞各社に当該取組を取り上げていただき、世の中に広く問題提起ができたために、登山者の認知度が高かったと考えられる。

問5「今回の登山で携帯トイレを持ってきましたか？」

「はい：84%」、「いいえ：15%」

- 持ってきている人が非常に多い結果が得られた

問6「南沼野営指定地で携帯トイレを使用しましたか？」

「使用した：54%」、「使用していない：39%」

- 携帯トイレの所持率は高かったが、携帯トイレを使用していない人が39%いるため、携帯トイレを「持ってきている」が、「使用していない」という対象がいるということがわかる。

⇒ 今後、この対象に対して使用しない理由などを分析する必要があると考えられる。

道外からの登山者に話を聞いたところ、携帯トイレの存在自体が判らないという人もいた。アンケートでもその傾向がうかがえる。

「携帯トイレを持ってきていない人13名の居住地は？」

「道外：29%（9名）」、「道内（十勝管内除く）：9%（3名）」、「十勝管内：0%（0名）」

- 携帯トイレを持ってきていない人の割合は道外の人が多いという結果が得られた。
- ⇒ このことから、トイレ問題のPRは道外に向けても実施していかなくてはならない。

（トイレ道の植生復元事業）

南沼野営指定地には、植物が踏みつけられ裸地化してできたトイレ道の幹線が複数あり、その幹線から枝分かれした細い道が蜘蛛の巣状に広がっている。トイレ道があることで、登山が野営指定地の外へ出ることにに対する罪悪感がなくなり、人が入り込みやすくなる悪循環ができています。この悪循環を取り除くため、トイレ道の植生を回復し、道をなくす取組を実施する。今年度は、試験的に1本のトイレ道の植生復元を試み、携帯トイレブースの脇から岩陰に伸びる、南沼野営指定地で一番太いトイレ道の植生を復元することにしました。

平成29年9月15日に実施した当該取組は、ボランティアの方の協力をいただき、15名での作業となった。合同会社北海道山岳整備の岡崎氏に講師を依頼し、現地で指導をいただきながら、事業を実施した。手法としては、裸地化した道にヤシネットマットを敷き詰め、マットに植物の種子が付着し、発芽することで植生を回復させるという方法を使った。来年度も植生復元の事業を実施する予定であるが、今年事業を実施した場所の状況がどのようになっているか、現地を確認した上で来年度の事業を検討する。

植生復元を実施し、そこに看板を設置したことで、ここから先は侵入できないということを感じ、心理的障壁を高めるという効果も期待できる。



植生復元作業後のトイレ道



植生復元を行ったので、立入禁止を告げる看板

(携帯トイレの普及啓発活動)

普及啓発としては、チラシの作成、のぼりの作成、新得町内での携帯トイレの取扱場所を増やすなどの取組を実施した。また、新得町観光協会のホームページによるPRやヤマレコを使って新得山岳会のメンバーが携帯トイレの話を伝えるなど電子媒体を使用した普及啓発なども実施している。

新得町内で新たに携帯トイレの販売を始めた店舗での今年の売り上げ数は、160個（トムラウシ温泉東大雪荘 120個、JR 新得駅 39個、町内スポーツ店 1個）であった。新得町内で販売を開始したことにより、携帯トイレの所持率が高くなったと考えられる。

さらに、使用済み携帯トイレの回収量は倍増しており、携帯トイレの利用が進んでいることがうかがえる。これらのことから、普及啓発が大きな効果を生み出しているといえる。



(トムラウシ山短縮登山口バイオトイレ)



(トムラウシ温泉園地公衆トイレ)

携帯トイレ回収ボックスが設置されている2ヶ所

【今後の取組】

来年度実施する事業については、今年度と同様の事業を進めていく。

特にアンケート調査結果などを分析し、携帯トイレブースの増設は必要なのか、適正な数がいくつなのかを具体的に検討し、トムラウシ山のトイレ問題が改善するトイレシステムを作っていかななくてはならない。

トイレ問題を解決するには、地域で作ったルールを登山者が守りやすい環境を整え、登山者がルールを守る、ということが必要である。施設整備をすると維持管理の問題が発生するため、地域関係者で連携してシステムを支えていく必要がある。

トムラウシ山は貴重な自然が存在し、天然記念物として指定されている新得町の大切な地域資源である。登山者のためだけのトムラウシ山ではなく、新得町民、北海道民、多くの人にとって大切なトムラウシ山であり、地域の山の環境は地域で守らなければならない。

今年度の取組は地元関係者で実施したが、来年度からは地域をより巻き込んだ取組をしていきたいと考える。地元がトムラウシ山を大切にしているという気持ちが登山者に伝われば、その登山者の意識は携帯トイレ利用のルールを守るという行動に繋がるからだ。

山のトイレの問題は、何十年もかけて山を汚染してきたため、すぐに結果が出ることはない。解決には時間がかかるため、長期的な展望で、楽しみながら活動を続けていきたいと思う。

平成29年度トムラウシ山南沼野営指定地汚名返上プロジェクト 活動報告書

活動 No. 1 会議

日時：平成29年4月17日（月）13：00から14：50

- (1) 大雪山国立公園新得地区登山道維持管理連絡協議会山岳トイレ環境対策部会設置要綱の承認
・ 部会長 新得山岳会 小西 則幸 氏
- (2) 平成29年度事業及びスケジュールの検討
・ アンケート調査の内容、実施時期
・ 普及啓発活動の進め方



活動 No. 2 会議

日時：平成29年5月31日（水）13：30から16：00

- (1) アンケート調査内容、実施時期の決定
- (2) 普及啓発活動の進め方

活動 No. 3 普及啓発チラシの作成

日時：平成29年6月 完成

活動 No. 4 大雪山国立公園オリジナル携帯トイレの販売

日時：平成29年7月上旬

新得町内設置場所：

トムラウシ温泉東大雪荘、新得ステラステーション（JR 新得駅）、岡本スポーツ

活動 No. 5 アンケート調査実施

（南沼野営指定地） 回収88枚

- 日時：平成29年7月15日（土） 十勝総合振興局
平成29年7月16日（日） 上川総合振興局
平成29年7月25日（火） 環境省 上士幌自然保護官事務所
平成29年7月29日（土） 山のトイレを考える会
平成29年7月30日（日） 新得山岳会
平成29年8月 5日（土） 十勝山岳連盟
平成29年8月19日（土） 新得山岳会

（トムラウシ山短縮登山口） 回収22枚

- 日時：平成29年7月18日（火） 新得町役場
平成29年8月14日（月） 新得町役場
平成29年8月15日（火） 十勝西部森林管理署東大雪支署
平成29年8月18日（金） 十勝西部森林管理署東大雪支署
平成29年8月28日（月） 十勝西部森林管理署東大雪支署
平成29年9月 7日（木） 十勝西部森林管理署東大雪支署

活動 No. 6 定点カメラ設置によるトムラウシ南沼野営指定地の利用状況調査

日時：平成29年7月25日～10月3日まで

自動撮影カメラで南沼に設置されるテントの数を撮影し、期間中何張テントが張られているか調査を実施した。

活動 No. 7 十勝管内大型スポーツ店への普及啓発活動

日時：平成29年8月上旬

十勝管内大型スポーツ店に対して、チラシの設置依頼と携帯トイレの販売状況の聞き取りを実施した。全て登山の為の使用ではないと考えられるが、3店舗ともある程度売れる商品であるとのこと。

- スーパースポーツゼビオ帯広いききゅう店
- スポーツデポ 帯広店
- アルペン音更店



活動 No. 8 トイレ道の植生復元作業の試行

日時：平成29年9月15日（金）（事前調査：7月15日（土））

北海道山岳整備 岡崎 哲三 氏 に講師を依頼し、試行的にトイレ道の植生復元作業を実施した。携帯トイレブースの後ろのトイレ道1本を現在止めている。



活動 No. 9 会議

日時：平成29年11月29日（水） 15:00から17:00

- (1) アンケート調査結果の検討
- (2) 平成30年度以降の事業方針の検討

トムラウシ南沼野営指定地汚名返上プロジェクト 平成29年度アンケート調査結果

- 南沼野営指定地のし尿放置、トイレ道による高山植物の踏み荒らしの問題に取り組むため、南沼野営指定地及びトムラウシ山短縮登山口でアンケート調査を実施。

① 南沼アンケート結果（全7回実施、88枚回収）

- 問1 今回の登山コースはどれですか？
トムラウシ山往復：60% 大雪山縦走：23% 大雪山・十勝連峰縦走：17%
- 問2 何泊の登山ですか？ 0泊1日：1% 1泊2日：50% 2泊3日：18%
3泊4日：19% 4泊5日：7% 5泊6日：2% 未回答3%
- 問3 今回の登山のパーティー構成について 単独：34% パーティー：65% 未回答1%
- 問4 南沼野営指定地では携帯トイレの利用をお願いしていることをご存じでしたか？
知っていた：89% 知らなかった：11%
- 問5 今回の登山で携帯トイレを持ってきたか？ はい：84% いいえ：15% 未回答：1%
- 問6 南沼野営指定地で携帯トイレを使用しましたか？
使用した：54% 使用していない：39% 未回答：7%
- 問7 南沼野営指定地の携帯トイレブースの使い勝手について
使いやすい：23% 使いづらい：34% 未回答：43%
- 問8 南沼野営指定地の携帯トイレブースは増設が必要か？
現状の1基で十分：19% 増設が必要：49% わからない：16% 未回答：16%
- 問9 使用済み携帯トイレ回収ボックスが主要登山口に設置されていることを知っているか？
全部知っていた：24% 一部知っていた：45% 知らなかった：26% 未回答：5%
- 問10 携帯トイレにより問題解決を図るために有効な方法は？
広報：33% ブース増設：22% 利用ルール化：24% わからない：5% その他：11% 未回答：5%
- 【男女比】 男性：72% 女性：23% 未回答：5%
- 【年代比】 10代：1% 20代：6% 30代：19% 40代：31% 50代：12% 60代：23% 70代：5%
- 【地域比】 道外：36% 道内（管内除く）：38% 十勝管内：21%

② トムラウシ山短縮登山口アンケート結果（全6回実施、22枚回収）

- 問1 日帰り登山ですか、宿泊登山ですか？ 日帰り：86%（19名） 宿泊：14%（3名）
- 問2 今回の登山のパーティー構成について 単独：45%（10名） パーティー：55%（12名）
- 問3 南沼野営指定地では携帯トイレの利用をお願いしていることをご存じでしたか？
知っていた：68%（15名） 知らなかった：32%（7名）
- 問4 今回の登山で南沼に立ち寄ったか？
はい（宿泊した）：15%（3名） はい（通過のみ）：18%（4名） いいえ：68%（15名）
- 問5 今回の登山で携帯トイレを持ってきたか？
はい：18%（4名） いいえ：18%（4名） 未回答：64%（14名）
- 問6 南沼野営指定地で携帯トイレを使用しましたか？
使用した：9%（2名） 使用していない：18%（4名） 未回答：73%（16名）
- 問7 南沼野営指定地の携帯トイレブースの使い勝手について
使いやすい：9%（2名） 使いづらい：5%（1名） 未回答86%（19名）
- 問8 南沼野営指定地の携帯トイレブースは増設が必要か？
現状の1基で十分：67%（2名） わからない：33%（1名）
- 問9 使用済み携帯トイレ回収ボックスが主要登山口に設置されていることを知っているか？
全部知っていた：18%（4名） 一部知っていた：46%（10名） 知らなかった：36%（8名）
- 問10 携帯トイレにより問題解決を図るために有効な方法は？
広報：25%（6名） ブース増設：25%（6名） ルール化：21%（5名）
判らない：17%（4名） その他：4%（1名）
- 【男女比】 男性：91% 女性：9%
- 【年代比】 10代：0% 20代：5% 30代：5% 40代：45% 50代：27% 60代：18% 70代：0%
- 【地域比】 道外：82% 道内（管内除く）：18% 十勝管内：0%

トムラウシ南沼野営指定地汚名返上プロジェクト 平成29年度のまとめ

■ 南沼野営指定地のし尿放置、トイレ道による高山植物の踏み荒らしの問題に取り組むため、平成29年度、官民地元関係団体が山岳トイレ環境対策部会を立ち上げ事業を実施。

(事業：南沼及び登山口でのアンケート調査、トイレ道植生復元事業、その他普及啓発)

① 南沼アンケート結果 (全7回実施、88枚回収)

問4 南沼野営指定地では携帯トイレの利用をお願いしていることをご存じでしたか？

知っていた：89% 知らなかった：11%

問5 今回の登山で携帯トイレを持ってきたか？

はい：84% いいえ：15%

問6 南沼野営指定地で携帯トイレを使用しましたか？

使用した：54% 使用していない：39%

考察：携帯トイレを持ってきていない人が多いのではという当初の予想に反して、携帯トイレの所持率が高かった。携帯トイレを使用していない人が39%いるため、「持ってきている」が、「使用していない」という対象について、理由を分析し取組を検討する必要がある。

問8 南沼野営指定地の携帯トイレブースは増設が必要か？

現状の1基で十分：19% 増設が必要：49% わからない：16%

問10 携帯トイレにより問題解決を図るために有効な方法は？

広報の徹底：33% ブースの増設：22% 携帯トイレ利用のルール化：24%

考察：問題解決には広報などのソフト面、ブースの増設などのハード面双方が必要と考えられる。

傾向1：携帯トイレを持ってきていない人(13名)の「宿泊日数」

1泊2日：3名 2泊3日：3名 3泊4日：5名 4泊5日：2名

(全体の50%(44名)は1泊2日の登山)

携帯トイレを持ってきていない人は宿泊日数が長い事が多い

傾向2：携帯トイレを持ってきていない人(13名)の「地域」

道外：29%(9名) 道内(管内除く)：9%(3名) 十勝管内：0%(0名)

携帯トイレを持ってきていない人の割合は道外が多い

② 新得町内での携帯トイレの販売個数 (合計160個販売)

トムラウシ温泉東大雪荘：120個 JR新得駅：39個 町内スポーツ店：1個

③ 新得町内での使用済み携帯トイレの回収個数の推移

(短縮登山口、トムラウシ温泉に回収ボックスがある。)

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
回収数	129個	141個	265個	192個	280個	248個	220個	556個
登山者数						2,642	1,512	3,090

携帯トイレの所持率が高かったことの要因として、今年度からトムラウシ温泉、JR駅などで携帯トイレの販売を始めたことが考えられる。また、携帯トイレの回収量が倍増したことから、携帯トイレの利用が進んだと考えられる。普及啓発の効果が出ていると考えられる。

また、植生復元の事業についても、野営地の外に踏み込んではいけないという心理的障壁を高める事につながるため、携帯トイレの利用を上げることにつながる考えられる。